

生有研シンポジウム2018 開催

(平成30年12月4日)

12月4日、「分子で解き明かす生命現象～生体分子を「見る」「捕まえる」「操作する」～」と題して生有研シンポジウムを開催しました。7回目を迎えた今回は「核酸」を中心トピックに、物理化学、有機合成化学、分子生物学を横断的にカバーするため新進気鋭の先生方3名（東北大学多元物質科学研究所・荒木保幸先生、東京医科歯科大学生体材料工学研究所・平野智也先生、名古屋大学大学院工学研究科・神谷由紀子先生）をお招きするとともに、生有研所員・寺正行の研究も紹介しました。また、慶応大学医学部・塩見春彦先生には特別講演をお願いしました。聴衆には関西の大学8研究室から33名の若手研究者や大学院生、学部学生が参加しました。2012年から続くこのシンポジウムでは、学生・院生に積極的な質問とディスカッションを促し、Best Discussion賞を贈って将来の科学人材育成を目的の一つとしています。化学系研究室からの参加者が多かったにもかかわらず、今回のような学際的なトピックにも数多くの鋭い質問が飛び出し、講師の懇切な説明、充実した議論が繰り広げられました。懇親会では、講師を中心に年齢や分野を超えた交流が行われ、親睦を深めることができました。生有研所員も自らの研究を顧みる貴重な機会となりました。今回、素晴らしいご講演を頂いた講師の先生方、シンポジウムを大いに盛り上げてくださった参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。



シンポジウムの様子



懇親会にて

Best Discussion賞（右写真、左から）

（関西学院大院-理工）M2 松本 慎太郎氏

（大阪大院-理）B4 山本 竜駒氏

（大阪大院-理）B4 三浦 彩音氏

（大阪大院-理）M1 内藤 ひかり氏

中西重忠所長をはさんで

（京都大院-薬）M1 東 克暁氏

右端は垣見吉彦理事長

